

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2010年2月

IEC/TC89(耐火性試験)テルアビブ会議

IEC/TC89の国際会議が2009年10月18日～21日、イスラエルのテルアビブで開催された。参加国はイスラエルも含めて、米国、英国、ドイツ、フランス等15か国で、総勢30名の参加があった。日本からは、IEC/TC89国内委員会の深谷委員((社)電線総合技術センター)、香月委員((独)製品評価技術基盤機構)、春原委員(ポリプラスチックス(株))、井上委員(帝人化成(株))および乾(乾安全規格事務所)の5名が参加した。

TC89の会議が開かれたテルアビブは、地中海に面した地域で、100年ほど前から砂丘を開拓してできた新しい街である。会議はWG11(燃焼生成物)、WG12(着火と燃焼の広がり)、WG10(ガイドダンス)、議長諮問WG(AG13)およびTC89全体会議の順に進められた。各WGのトピックスをプラスチックに関係のあるテーマを中心に以下に述べる。

1. WG10 会議 (ガイドダンス)

(1)IEC 60695-1-11 (火災の危険性の評価)

近傍の部品に広がる火災の危険性を評価するため、近傍の部品の試験(consequential testing)に関する記述を追加して、FDISへ進めることになった。

2. WG11 会議 (燃焼生成物)

(1)IEC 60695-6-2 (燃焼発煙性—試験方法と適用のガイド)

発煙量が低い製品に関しては、EN50399試験は適切でないため、3mキューブ試験(IEC 61034)を使用する旨の追記を行った。

日本コメントにより、この文書は試験方法の選択、試験結果の利用に有益であるため、試験方法の説明は附属書とした後、技術標準から国際規格へ移行することになった。

3. WG12 会議 (着火と燃焼の広がり)

(1)IEC/CD 60695-2-10 (グローワイヤ試験—装置及び共通試験方法)

ラウンドロビンテスト(RRT, 持ち回り試験)の結果から、ワイヤが試料に当たる圧力測定およびワイヤ温度の確認方法を改良して、2nd CDへ進めることになった。PVC等を試験すると、腐食によりワイヤの線径が細るので、外径減少率を規定することになった。

(2)IEC/CD 60695-2-11 (最終製品のグローワイヤ燃焼性試験方法)

着火燃焼が2秒以上継続する場合、IEC 60335-1と同様、近傍の部品にニードルフレイム試験を行うことを規定化し、2nd CDへ進めることになった。火災危険性に寄与する重量を2gとすることになった。

(3)IEC 60695-2-12 (材料のグローワイヤ燃焼性試験方法)

日本提案により、試験結果のばらつきを少なくするため各温度で3回の試験を実施するという大

きな技術的変更を加えて、FDIS へ進めることになった。推奨試験開始温度を 650℃にするという備考は削除した。

(4) IEC 60695-2-13 (材料のグローワイヤ着火性試験方法)

2-12 と同様、各温度で 3 回の試験を実施するという変更を加えて、FDIS へ進めることになった。GWIT の結果が厚さごとに異なる場合、厚さごとに試験することになった。

(5) IEC TS 60695-11-11 (火炎からの熱流束による着火性試験) : 本規格は日本提案。

RRT のため、日本から「熱照射孔のある板」を提供した。次回 WG までに RRT の具体的スケジュール等を作成する。

(8) IEC/CD 60695-11-10 (50W 試験炎による燃焼試験)

日本提案により、新たな接炎ゲージを規定することになり、2nd CD へ進めることになった。

(9) IEC/CD 60695-11-20 (500W 試験炎による燃焼試験)

日本提案 (5 秒間バーナ固定法) に用いるバーナ固定具を加えることになり、2nd CD へ進めることになった。

4. その他

プロジェクトチームでホットワイヤ着火試験方法の検討を行っているが、次回 WG に NWIP (新規提案) を行う予定である。

次回の会議は 2010 年 5 月 10 日～13 日に、スロバキアのブラティスラバで開催される予定である。

報告：日本プラスチック工業連盟
電気材料安全・規格委員会派遣
乾 泰夫 (乾安全規格事務所)